

# McAfee が支援するビジネス アプリケーションのモバイル化

## 目次

ビジネス アプリケーションのモバイル化	3
問題領域の定義	3
基本的な要件	4
セキュリティ	4
接続性	5
個人設定	5
統合	6
拡張性	7
サマリ	7

マカフィーは、世界最大のセキュリティ専門ベンダーとして携帯電話の領域でも長年にわたり業界をリードしてきました。これまで Microsoft Windows Mobile 搭載のスマートフォン向けに暗号化とマルウェア対策ソリューションを提供してきましたが、この製品群に現在最も人気の高い Apple iPhone や Android などのスマートフォン OS やモバイル機器向けのセキュリティが加わりました。これにより、モバイル機器から社内のアプリケーションに安心してアクセスすることが可能になります。モバイル機器の数が増えても問題ありません。仕事の仕方や場所に関わらず、すべてのエンドポイントのセキュリティを管理できる包括的なマカフィーのソリューションは非常に多くの企業から注目を集めています。

### ビジネス アプリケーションのモバイル化

現在、多くの企業がトップレベルの成長を維持し、顧客満足度を向上させるためにビジネス アプリケーションのモバイル化を推進しています。

既存のアプリケーションをモバイル化する場合もありますが、モバイル環境で働く従業員のためにアプリケーションを新たに開発したり、配備することもあります。アプリケーションのモバイル化は通常、営業担当副社長、製品開発部長やマーケティング部長などの事業責任者やプロジェクトの責任者が必要性を認識し、プロジェクトが推進されます。IT 部門には、ビジネス データにどこからでもリアルタイムにアクセスしたいというニーズを満たすことが求められます。モバイル化されるビジネス アプリケーションは主にビジネス インテリジェンス、セールス フォース オートメーション、POS、文書共有などに分類されます。



図 1: モバイル化の対象になるビジネス アプリケーション

### 問題領域の定義

アプリケーションのモバイル化を効果的に行うには、次の点を事前に検討する必要があります。

- アプリケーションが使用するデータをどのように保護するか
- モバイル機器上のアプリケーションがバックエンドのデータ サービスにどのように接続するのか
- このアプリケーションを誰が使用するのか
- エンドポイントのモバイル機器を既存の IT 環境にどのように統合するのか
- モバイル アプリケーションの導入をどのように展開するのか

マカフィーでは、これらの問題を考慮し、次のことを実現する管理プラットフォームを提供します。

- すべての企業情報の整合性、機密性、信頼性の維持
- ビジネス アプリケーション データと IT サービスへのセキュアなリアルタイム アクセス
- 多様なエンドユーザーに合わせたモバイル機器の設定
- モバイル機器と企業環境のシームレスな統合
- 大規模な配備においてもこれらの要件を実現

McAfee® Enterprise Mobility Management (McAfee EMM®) ソリューションは、企業がアプリケーションのモバイル化を推進する上で必要になる基礎的な土台を提供します。企業情報を危険に晒すことなく社内アプリケーションに接続できるため、モバイル環境での作業効率が向上します。拡張性に優れた設計になっており、数千のモバイルユーザーでもシームレスに管理することができます。

#### 基本的な要件

ビジネス アプリケーションのモバイル化を行う上で IT 部門が解決すべき基本的な課題は、セキュリティ、接続性、個人設定、統合、拡張性の 5 つです。

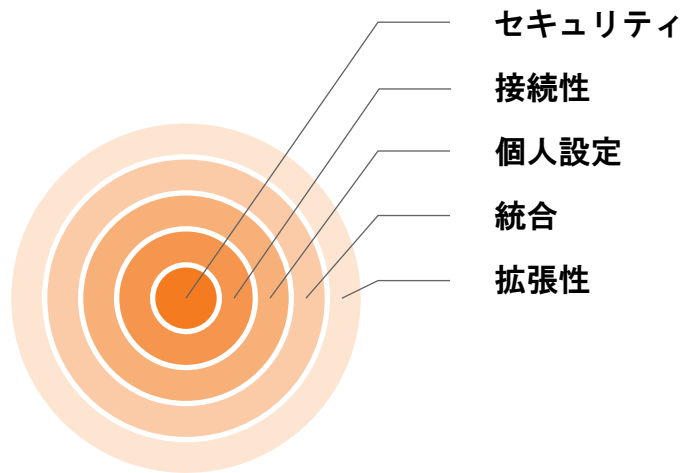


図 2: 企業におけるモビリティ管理の基本要件

#### セキュリティ

McAfee EMM ソリューションは、ビジネス アプリケーション データ、ユーザーの認証情報、共有の認証情報、個人情報管理 (PIM) など、サポートするモバイル機器上にあるすべての企業データを保護します。この包括的なアプローチにより、企業の IT セキュリティ ポリシーを遵守するだけでなく、HIPAA (Health Insurance Portability and Accountability Act)、SOX (Sarbanes-Oxley) 法、Basel II、FISMA (Federal Information Security Management Act)、米国食品医薬品局 (FDA) の基準などに違反するリスクも軽減できます。

McAfee EMM アーキテクチャは、組織で既に利用されているセキュリティ (PIN/ パスワード、暗号化、ローカル/ リモート ワイプなど) と管理機能を利用し、企業全体でモバイル機器を保護します。ノート PC と同様に、既存の IT インフラに接続するようにモバイル機器を正しく設定することで、既存のインフラに対する投資を無駄にすることなく、モバイルユーザーの生産性を向上させることができます。このアーキテクチャでは、エンドユーザーの操作を邪魔することなく、必要なセキュリティ対策を実施することができます。また、モバイル機器の処理速度が低下したり、バッテリーの消耗を速めることもありません。McAfee EMM ソリューションでは、統合管理機能に欠けている他社のセキュリティ製品のアドオン管理機能と比較して、モバイル端末管理・設定に伴うヘルプデスクへの問い合わせを軽減化することができます。

マカフィーのこのソリューションを導入するだけで、生産性に影響を及ぼすことなく、セキュリティ要件を満たすことができます。



図 3: 簡単で安全な自動セルフサービスによるプロビジョニング

### 接続性

モバイル アプリケーションが最も威力を発揮するのは、バックエンドのデータ サービスに効率よく接続できた場合です。

複数の接続オプションがあるという点では、現世代のモバイル機器は強力な生産性ツールといえます。現在のモバイル機器は、WiFi、2G、3G、4G で通信事業者のネットワークに接続し、データにアクセスすることができます。エンタープライズクラスのデバイスの多くは強力な VPN 機能と無線接続により、企業データに対するセキュアなリモートアクセスを実現しています。これらのネットワーク機能により、重要な電子メール アプリケーションとトランザクション志向のアプリケーションが可能になります。

McAfee EMM は、セキュア WiFi、VPN、既存の電子メールの同期機能を自動的に設定します。ノート PC と同様に、既存の IT インフラに接続するようにモバイル機器を正しく設定することで、既存のインフラに対する投資を無駄にすることなく、モバイル ユーザーの生産性を向上させることができます。

### 個人設定

従来のコンピューティング環境と同様に、モバイル環境にも「万能サイズ」は存在しません。

- ネットワーク リソースにアクセスするには、ユーザーごとに固有の認証情報（ユーザー名、パスワードなどのデジタル証明書）が必要です。
- 様々な施設や建物にいるユーザーがローカルのワイヤレス アクセス ポイントに接続します。
- 地域に配備された VPN アクセス サーバーやフロント エンドのメッセージング サーバーに、異なる国や地域のユーザーが頻繁に接続しています。
- 組織内の役割に応じて、ユーザーごとに異なるセキュリティ ポリシーやアクセス権限が必要になる場合があります。



図 4: 社内サービスへのセキュア接続

承認されたユーザーが自分のモバイル機器からマカフィーの使い易いセルフサービス機能にアクセスすると、次の処理が自動的に実行されます。

- ユーザー固有の認証情報をモバイル機器にプロビジョニングできます。
- このユーザーに設定されたセキュリティ ポリシーに従って、ネットワークとユーザー固有のアプリケーション サービスに接続します。
- 組織内のユーザーの役割に設定されたポリシーに従って、モバイル機器上のすべてのデータを保護します。

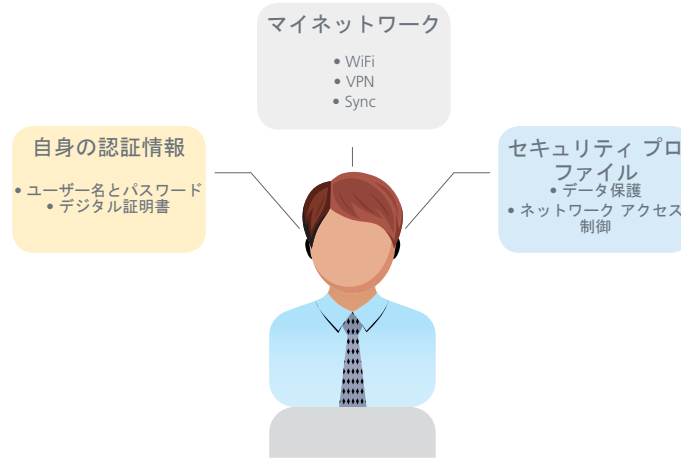


図 5: EMM での個人設定

**統合**

McAfee EMM ソリューションでは、Sync、WiFi、VPN、PKI（企業の公開キー インフラ）など、組織の現在のインフラを利用してモバイル機器を社内のアプリケーションに接続させます。これにより、モバイルユーザー、アプリケーション、デバイスを必要とするデータ サービスにつながります。

McAfee EMM ソリューションは既存のシステムに密接に統合されます。このプラットフォームは IT データセンター環境の一部となり、クローズドなアプリケーション ベースの IT サイトで発生する効率性、拡張性、相互運用性の問題は発生しません。マカフィーのソリューションは Microsoft Active Directory、Lotus Domino Directory、Microsoft Windows Server、SQL Server、Microsoft Exchange ActiveSync を統合し、Microsoft Exchange、Lotus Domino、Google Apps、企業の公開キー インフラ（PKI）と併用できるので、IT 部門にすでに存在するスキルを活用し、総所有コストを削減することができます。

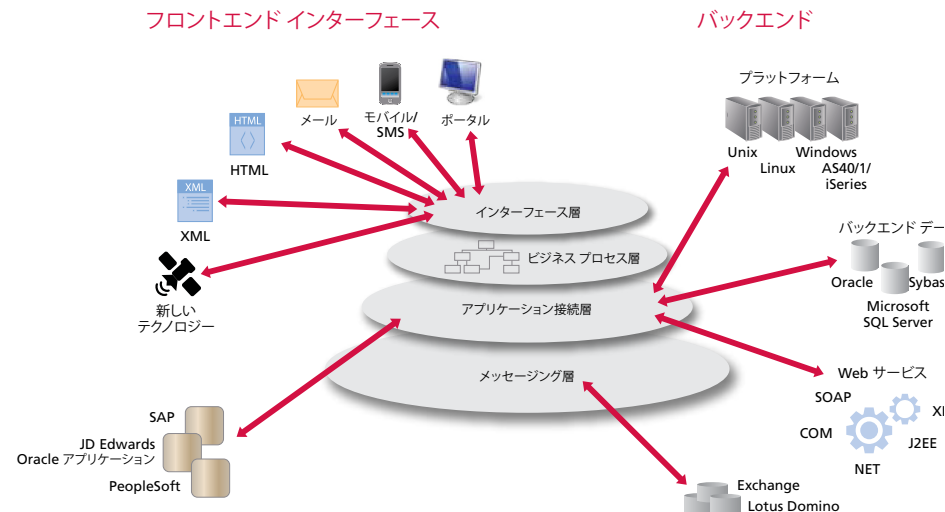


図 6: 既存の IT インフラとネットワークを利用する EMM



### 拡張性

企業のモバイル ユーザーに対するモバイル ビジネス アプリケーションの展開は非常に重要な作業であり、先進的な取り組みですが、これによって経営効率を高め、トップレベルの成長率を達成できなければ意味がありません。しかし、モバイル環境で働く数百あるいは数千もの従業員にデータアクセスを許可しながら企業情報を保護することは多くの労力と時間を要する作業です。適切なツールがなければ、多大な費用が掛かってしまいます。

McAfee EMM ソリューションは、セキュリティ、接続性、個人設定、統合、拡張性のすべての問題を一元管理と自動化により一つのシステムで解決します。

McAfee EMM ソリューションは次のような環境に対応しています。

- 数千のモバイル ユーザー
- 複数のビジネス アプリケーション
- 地理的に異なる場所に存在するデータ ネットワーク
- モバイル データの保護



図 7: 時間と場所に関わらず拡張可能なセキュリティ

### サマリ

モビリティはメールを超えました。現在では、実際のビジネス問題を解決する様々なアプリケーションが販売されています。また、市販のソリューションが利用できない場合には、組織のニーズを満たすカスタム アプリケーションが開発されています。しかし、実際に価値を生み出し、経営効率を高め、トップレベルの成長率を実現するには、IT 部門がビジネス アプリケーション モバイル化を十分に検討し、基本的な問題（セキュリティ、接続性、個人設定、統合、拡張性）を解決しなければなりません。

McAfee EMM は、作業環境のモバイル化を進める多くの企業の期待に応えるソリューションです。

### McAfee, Inc. について

McAfee, Inc. は、米国カリフォルニア州サンタクララに本社を置く、世界最大のセキュリティ専門ベンダーです。マカフィーは、世界中のセキュリティに関する手強い難題に絶えず取り組んでいます。また、世界中で使用されているシステムとネットワークの安全を実現する高い実績を誇る革新的なソリューションとサービスを提供し、ユーザーのインターネットへの安全な接続、ウェブの閲覧および取引の安全を確実に支えています。受賞歴を誇るすばらしい研究チームとともに、マカフィーは革新的な製品を送り出しています。個人ユーザーをはじめ、企業、官公庁・自治体、ISP など様々なユーザーは、コンプライアンスの確保、データの保全、破壊活動の阻止、脆弱性の把握を実現し、またセキュリティ レベルを絶えず管理し、改善することができます。www.mcafee.com/jp



マカフィー株式会社  
www.mcafee.com/jp

東京本社 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-12-1  
渋谷マークシティ西棟 20F  
TEL 03-5428-1100 (代) FAX 03-5428-1480

名古屋営業所 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 3-20-17  
中外東京海上ビルディング 3F  
TEL 052-954-9551 (代) FAX 052-954-9552

西日本支店 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島 2-2-2  
近鉄堂島ビル 18F  
TEL 06-6344-1511 (代) FAX 06-6344-1517

福岡営業所 〒810-0801 福岡県福岡市博多区中洲 5-3-8  
アクア博多 5F  
TEL 092-287-9674 (代) FAX 092-287-9675

McAfee、McAfee のロゴおよび McAfee EMM は米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の登録商標です。本書中のその他の登録商標および商標はそれぞれその所有者に帰属します。本資料に記載されている製品計画、仕様、製品情報は、情報提供を目的としたものであり、本資料の内容に対してマカフィーは如何なる保証も行いません。本資料の内容は予告なしに変更される場合があります。Copyright © 2010 McAfee, Inc. 10103wp\_mob-bus-apps\_0710\_fnl\_ASD